



明るい長寿社会づくり情報

平成18年度

すこやか長寿社会づくり大会・かごしまの知恵袋セミナー ～県内各地から600人が参加～

1月25日、かごしま県民交流センターで「平成18年度 すこやか長寿社会づくり大会・かごしまの知恵袋セミナー」を開催しました。

本会では、だれもが住み慣れた家庭や地域の中で、一人ひとりがその人にふさわしい生活が送れるよう、すこやかでこころ豊かな長寿社会の実現をめざして、平成元年から「すこやか長寿社会運動」を推進しており、「すこやか長寿社会づくり大会」は高齢社会に対する県民の関心をより一層高め、さらに積極的に展開することを目的に毎年実施しています。

また、昨年に引き続き、県内各地で受け継がれている高齢者のさまざまな知恵を大切に受け継ぐため「かごしまの知恵袋セミナー」を同時に開催しました。開催当日は、県内各地から約600人もの参加者を得て盛況な催しとなりました。

大会では「すこやか長寿社会・私の思うこと」作文コンクールの入賞者11人の表彰が行われたあと、最優秀賞受賞者の伊東イクエさん（出水市、95歳）と、笛田満里奈さん（鹿児島市、高校2年生）の作文朗読がありました。

そのあと、元株式会社南日本新聞社代表取締役社長の日高旺氏が「『文化力』の時代」と題して記念講演を行いました。現在日本人に日本語が通じにくい時代となっている。これからは、日本の伝統的な文化、ふるさとの文化の底力を発揮し、これまでの「経済力」の時代から「文化力」の時代へ目を向けていこうと話されました。参加者は日高氏の話に熱心に聞き入っていました。

午後からのかごしまの知恵袋セミナーは、鹿児島女子短期大学教授の久永繁夫先生によるコーディネートのもと、日置市友々会、伊仙町目手久民謡保存会、平成18年度エイジレスライフ実践者に選ばれたさつま町の野崎正寛さんら5人により、「昔の遊び」や「あくまきづくり」などを通じた伝承活動（友々会）、「八月踊り」や「島唄」の伝承活動（目手久民謡保存会）、ビデオ等の映像を活用した伝統文化の伝承活動（野崎氏）についての事例発表とパネルディスカッションが行われ、活発な意見交換がされました。

参加者からは、「作文発表で元気を貰った。」「『文化力』を題材に様々な視点から話がされた講演に感銘を受け、日本の伝統文化を次世代に伝えることの重要性を認識した。」「セミナーでは具体的事例が多く判りやすく、また『昔ながらの知恵や伝統文化』の伝承活動に取り組んでおられる姿に心をうたれた。」などの感想をいただきました。



ヤング高齢者ボランティア養成講座・ニュースポーツ普及促進事業開催



〈ヤング高齢者ボランティア養成講座〉

県内では、高齢者の交流の場として604もの「ふれあい・いきいきサロン」が活発に行われています。このようなサロン活動には多くの住民の参加・協力が求められることから、サロンの運営に当たるボランティア養成の講座を11月上旬から、12月下旬にかけて、出水市、南さつま市、鹿屋市、和泊町の4カ所で開催しました。（参加者146人）

内容は、健康・食事・自立支援・健康体操・創作活動等多岐にわたり、参加者から好評をいただきました。

〈ニュースポーツ普及促進活動〉

高齢者の健康づくりと社会参加の促進に役立つよう、誰もが手軽にできる、「ニュースポーツ」の普及の大会を、12月上旬に川薩地区（薩摩川内市）と肝属地区（錦江町）の2カ所で開催しました。川薩地区大会には260人、肝属地区大会には120人の参加がありました。競技種目は、数ある種目の中から来年開催される「ねりんピック鹿児島大会」での競技種目であるグランドゴルフ、ペタンク、インディアカのほか、オーバーボールを加えた4種目を行いました。

今後、このようなニュースポーツが県内各地で普及し、高齢者の健康・生きがいづくりや社会参加が、ますます進むことを期待しています。

